

補足

## 重篤な血液障害

(免疫性血小板減少症、溶血性貧血、赤芽球癆、無顆粒球症等)

## 臨床症状・検査所見

## 〈免疫性血小板減少症〉

(1) 臨床症状<sup>1)</sup>

皮膚の紫斑(点状出血及び斑状出血)、歯肉出血、鼻出血、下血、血尿、月経過多など

(2) 検査所見<sup>1-3)</sup>

- 末梢血液検査：血小板減少、末梢血塗抹標本で明らかな形態異常を認めない
- 骨髄検査：骨髄巨核球数正常または増加  
血小板減少をきたす他の疾患が除外される

## 〈赤芽球癆〉

(1) 臨床症状<sup>5,6)</sup>

貧血に伴う症状(全身倦怠感、動悸、めまい、顔面蒼白など)

(2) 臨床検査所見<sup>5,6)</sup>

ヘモグロビン濃度低下、網赤血球の著減、骨髄赤芽球の著減

## 〈溶血性貧血〉

(1) 臨床症状<sup>4)</sup>

倦怠感、動悸、息切れ、めまい、頭痛、黄疸など

(2) 臨床検査所見<sup>4)</sup>

- 血液検査：ヘモグロビン濃度低下、網赤血球増加、血清間接ビリルビン値上昇、血清ハプトグロビン値低下
- 骨髄検査：骨髄赤芽球増加
- 尿検査：ヘモグロビン尿、尿中ウロビリネン増加
- 広スペクトル抗血清による直接クームス試験陽性

## 〈無顆粒球症〉

(1) 臨床症状<sup>7)</sup>

発熱、悪寒、咽頭痛など  
(無症候性の場合もある)

(2) 臨床検査所見<sup>7)</sup>

血液検査：白血球分画の顆粒球(桿状核好中球＋分葉核好中球)の著減

## 参考文献

- 1) 難病情報センター「免疫性血小板減少症」最終更新日：令和7年4月
- 2) Kuwana M. et al.: *J Thromb Haemost.* 4: 1936, 2006
- 3) 厚生労働省難治性疾患政策研究事業 血液凝固異常症等に関する研究班「ITP 治療の参照ガイド」作成委員会. 成人特発性血小板減少性紫斑病治療の参照ガイド 2019改訂版. *臨床血液* 60(8): 877, 2019
- 4) 厚生労働省 特発性造血障害に関する調査研究班. 自己免疫性溶血性貧血診療の参照ガイド 令和4年度改訂版
- 5) 厚生労働省 特発性造血障害に関する調査研究班. 赤芽球癆診療の参照ガイド 令和4年度改訂版
- 6) 難病情報センター「後天性赤芽球癆」最終更新日：平成27年7月1日
- 7) 厚生労働省 重篤副作用疾患別対応マニュアル「無顆粒球症(顆粒球減少症、好中球減少症)」：平成19年6月(令和4年2月改定)

## ガイドライン等による対処法の補足 (対処法はP.34参照)

- 副腎皮質ホルモン剤の長期投与が必要な患者に対し、日和見感染予防が必要であるとASCOガイドライン<sup>1)</sup>に記載されています。
- 無顆粒球症では一般的に、発熱している場合、迅速な広域スペクトラムの抗菌薬による感染症の治療が必要となります。また、発熱性好中球減少症が長期に継続することが予測される場合には、顆粒球コロニー刺激因子(G-CSF)の使用の検討が推奨されます<sup>2,3)</sup>。

## 参考文献

- 1) Schneider BJ. et al.: *J Clin Oncol.* 39: 4073, 2021
- 2) 厚生労働省 重篤副作用疾患別対応マニュアル「無顆粒球症(顆粒球減少症、好中球減少症)」：平成19年6月(令和4年2月改定)
- 3) 日本臨床腫瘍学会. 発熱性好中球減少症(FN)ガイドライン(改訂第2版), 南江堂(2017)

重症筋無力症

心筋炎

脳炎・髄膜炎・脊髄炎

重篤な血液障害

重度の胃炎

ぶどう膜炎

血管炎

血球貪食症候群

結核

Infusion reaction